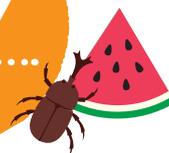


東京都リハビリテーション病院

ほっとリハ

vol. 37

夏号
2022年7月



院長のご近所探訪

～堀切菖蒲園編～

当院からは荒川、綾瀬川を挟んだ川向こう、葛飾区にある花菖蒲の名所です。園内には約200種、6,000株の菖蒲が植えられています。撮影当日はちょうど見頃を迎えており、様々な種類の美しい菖蒲の花を見ることができました。

理学療法士はジェネラリストでありスペシャリストである。

理学療法士は、ケガや病気などで身体に障害のある人や障害の発生が予測される人に対して、寝返る、起き上がる、座る、立ち上がる、歩くなどの日常生活を行う上で基本となる動作の改善を目指します。関節可動域の拡大、筋力強化、麻痺の回復、痛みの軽減など運動機能に直接働きかける治療法から、動作練習、歩行練習などの能力向上を目指す治療法まで、動作改善に必要な技術を用いて、日常生活の自立を目指します。理学療法士を一言でいうならば動作の専門家、リハビリテーションの専門職です。

スペシャリストとしての理学療法士は、特定領域の理学療法を追求し、深い知識や優れた技術を持つ人ともいえます。生涯学習としても認定理学療法士制度があります。対してジェネラリストとは浅く広い知識を満遍なく有している理学療法士といえます。

私が理想とする理学療法士は、小児から高齢者、整形疾患から中枢疾患まで、急性期から終末期まで、回復期から地域医療まで、スポーツからレクリエーション、装具、物理療法といった多方面の知識を持ち対応できる人。言い換えると分野を限定しない広範囲な知識・技術・経験を持った総合的な理学療法士です。その中で一つでも得意分野がある人になりたいと思っておりました。

現在は高齢社会の到来により、重複する障害を持つ患

者さんが増加しています。多様な病態に対応するために、疾患・障害の把握、身体機能の評価と、全体像を把握し、理学療法を展開できる広い視野や知識が必要となります。理学療法士の基盤となる基礎的な知識や技術の習得は不可欠であり、ジェネラリストの総合能力の重要性を認識しております。

当院の理学療法士は、現在46名で回復期リハビリテーション病棟、一般病棟、島しょ地域派遣、介護予防事業の支援、他施設の理学療法士の実務者研修の受け入れなど、院内の臨床のみならず、福祉保健、教育研究といった広範囲な活動をしております。また、脳卒中、運動器、呼吸器、地域理学療法、脊髄障害、補装具、物理療法と、多方面に専門的な知識を持つ認定理学療法士と基礎専門理学療法士が臨床訓練に従事しています。

多様化した時代のニーズに応じ、当院にて総合的な理学療法の提供ができるよう、これまでの知識と技術と経験を活かし、都民のニーズに応え、住み慣れた街で、自分らしく暮らしていけるように、多職種で連携し、地域社会へ貢献していく所存です。そして、これからもジェネラリストを基盤としたスペシャリストとして理学療法科が成長していけるよう努力していく所存です。

理学療法科 科長 水口 健一

運営理念

リハビリテーションを通して患者さんが生きる喜びと希望を抱き、充実した人生をおくられるよう、医の原点に立った心温まる医療を提供し、福祉・介護との連携推進をはかる。

病院機能評価 高度・専門機能 リハビリテーション(回復期)Ver.1.0の



認定を受けました!



当院は2022年2月17日に病院機能評価『高度・専門機能 リハビリテーション(回復期) Ver.1.0』の訪問審査を受審し、2022年5月6日付で同認定を受けました。

病院機能評価は、組織全体の運営管理および提供される医療についての評価を、第三者機関として公益財団法人日本医療機能評価機構が行い、病院の位置付けや問題点を明らかにするものです。とりわけ高度・専門機能は、本体審査の認定病院を対象とし、その名が示す通り、より高い水準を求め評価するものです。

当院では高度・専門機能については初めての受審であり、今の回復期リハビリテーションに何が求められているのか、改善すべき課題は何かを病院職員が一丸となって討議し、改善に向けて取り組みました(vol.36に掲載)

今回の認定に安心し慢心することなく、今後とも改善に努めてまいります。



このような点が評価されました!

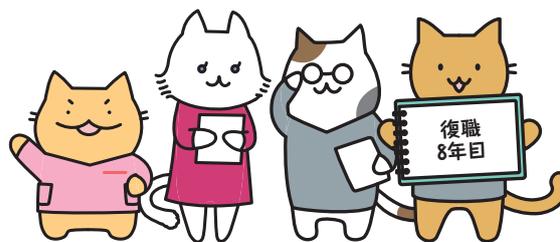
- リハビリテーション専門医を多く配置し、専門・認定看護師や認定療法士の育成も充実している。
- 病棟において管理栄養士が看護師と共同で栄養評価やモニタリングに関わり、NST*や褥瘡チームに参加するなどチーム医療の一端を担っている。
※NST……Nutrition Support Teamの略。栄養サポートチーム。
- 公認心理師が高次脳機能障害患者などに対し、多職種と協働で対応している。
- 自宅退院後の生活支援、復職・就労支援に向けて、多職種連携によるチーム活動が有効に機能している。
- 自宅復帰困難事例にも社会福祉士や退院支援看護師が入院時から関与し、地域の医療機関、介護福祉施設の情報収集に努めている。
 また、社会資源・行政制度利用等の支援を強みとした関係機関の連携に努めている。

さらに
精進するニャ!



看護部の取組み ~あれ&これ~ご紹介

Vol.19



復職して8年目になりました！！

私は看護師として仕事をしていました。2007年1月28日、妊娠6ヶ月の時、仕事中に脳出血を発症し、患者さんの前で右手が動かず座り込んでしまったのを良く覚えています。「あーあ。脳出血を起こしてしまった。」と思ったのが最後の記憶でした。その後3月26日に帝王切開で無事に出産しましたが、この時の記憶は私にはありません。急性期病院に入院しましたが、右半身麻痺と高次脳機能障害が残存しました。麻痺のある身体で育児は難しく、5月頃、回復期リハビリテーション病院に転院しました。リハビリテーション病院ではPT、OT、ST、心理の訓練を受けました。

転院時は歩けない状態でしたが、訓練で何とか杖歩行できるようになり、5月に育児は厳しいので自宅ではなく実家に戻りました。実家で2年間生活し、そろそろ自宅に戻ろうと考えていたとき、家族から「東京都リハビリテーション病院の心理を受けて帰ってきてほしい」と言われ、受診し、心理、PT、OTの訓練のため外来に通院しました。心理では注意の訓練をし、PTは歩行訓練、OTは家事動作の訓練をしました。その頃、Symphoという集団療法の誘いを受けました。Symphoでは自分の病気のこと、困っていること、今後は何をしたいのか等、ひとり一人話し、それに対して参加者からのアドバイスを貰い、その場で決まった2~3個の目標を実行し、次回、その経過を報告するなど、この療養は隔週で5カ月間受けました。

集団療法に参加できたお蔭で、今後どのようにしたら良いかと参加者からアドバイスをもらえ、自分も頑張っていかなければという考えを持てるようになりました。

リハビリに通院中に、担当のPTから障がい者雇用を募集している会社を紹介してもらい、一般企業に就職させて貰えました。そこではパソコンの入力作業が主な仕事でした。2年近く働きましたが、「都リハでも障がい者雇用を募集するみたいだよ！」との情報があり、都リハでぜひ働きたいと希望し、看護部長と面接しました。そして、平成27年の4月から看護部で仕事をすることになりました。

現在の仕事は、患者さんの入院時のFIMの入力、膀胱



留置カテーテルの挿入状況、食事摂取状態、オムツ着用の有無、入院時のADLスコアを確認し、DPCにデータ入力などしています。そのほか、看護部長や看護科長に依頼

された原稿作成や書類の仕分け、コピー、シュレッダー、パウチなどの作業をしています。

病院以外では、脳損傷ケアリングコミュニティ学会、脳フェス（脳卒中フェスティバル）と言う団体、東京トリトンスイミングクラブに所属して活動をしています。脳フェスは、健常者と脳卒中当事者が一緒に楽しめる場として、脳卒中の当事者である理学療法士の小林純也さんが立ち上げた団体です。そこでは、ファッションショー・美容班に所属しています。障がい者となってしまいましたが、ファッションショーでは、綺麗にお化粧をして貰え自然に笑顔になります。また、片手で作れ、片手で着けられて、片手で教えられるバリアフリーアクセサリーの認定講師の資格を取得して、アクセサリーを作って販売したり教えたりしています。

それから足立区の障害福祉センターで10年間高次脳機能障害のピアサポーターをしていました。脳卒中の当事者と関わる中で「入院中に脳卒中の方と話しがかった」と言う声をたくさん聞きました。今後は、是非ピアサポーターの経験を生かして、院内でもピアサポーターが出来たら良いなと考えています。

復職して自信が持てたからいろいろな活動もできるようになったと思っています。

そして、私は皆さんに支援していただける恵まれた環境の中で仕事ができていることに感謝しています。

看護部 高岡 ゆきえ

高度医療機器の共同利用について

当院では医療機関の方から
MRI・CT・骨塩定量検査のご予約を承っています。

MRI検査

● GE社製 Discovery750W 3.0T (3テスラ)

当院のMRI (Magnetic Resonance Imaging) は3.0T (3テスラ) で短時間、高解像度の画像を提供しております。MRI開口径は直径70cmと通常より広く様々な体格の方や閉所恐怖症の方への圧迫感が軽減されています。

また音楽を聞きながらリラックスして検査ができます (頭部検査等は音楽不可。音楽により全てのMRIの検査音を消すことはできません)。



※当院では医療連携での造影検査はおこなっていません。

骨密度測定検査

● HOLOGIC社製 Discovery

骨密度検査にはMD法 (Micro densitometry 法)、超音波法など様々な検査法がありますが、当院では放射線被ばくがわず



かで測定精度の高いDEXA法 (Dual-energy X-ray absorptiometry) で腰椎・両大腿骨頸部を測定しております。

過去に測定した値を表示できるため、前回との比較が可能です。

※DEXA法は日本骨粗鬆学会のガイドラインにおいても推奨される優れた検査方法です。

CT撮影装置

● キヤノンメディカルシステムズ製 Aquilion ONE

320列の検出器で1回転16cmの範囲を高速で撮影することができ、ディープラーニング技術を応用し低被ばくで高画質な画像の提供ができ



ます。MPR (multi planar reconstruction) や3Dも可能です、整形分野にも対応しております。

希望により腹部CTには内臓脂肪測定 (内臓脂肪面積) も追加することができます。

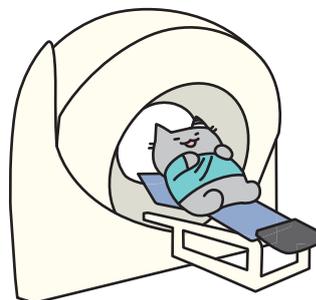
※当院では医療連携での造影検査はおこなっていません。

検査結果について

検査結果報告書 (読影レポート) 及び検査画像データ (DVD) を翌営業日までに紹介施設に郵送します。希望によりフィルム複写もおこなっております。

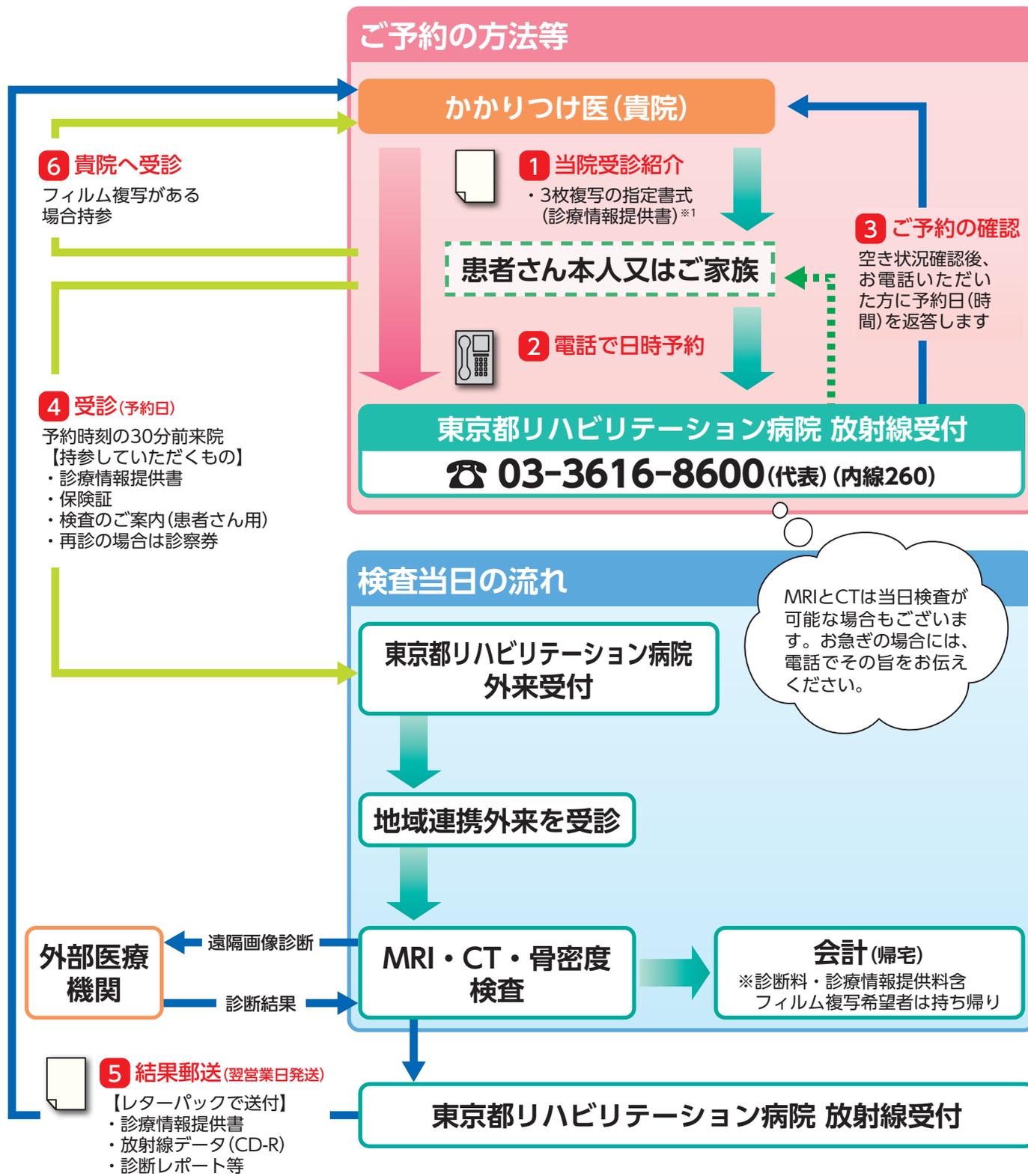
詳しくは

(東京都リハビリテーション病院 放射線受付)
03-3616-8600 (代表) (内線260)



MRI・CT・骨密度撮影利用のご案内（フロー）

当院でMRI等をご利用する場合は以下のような流れとなります。



※1 指定書式の用意がございますので、当院の放射線受付までお問い合わせください。



医療福祉連携室だより



「生活機能向上連携加算」取得支援を行っております！

地域リハビリテーション推進科 齋藤正洋

2025年までに「団塊の世代」が75歳以上になり、高齢化に拍車がかかります。国民は医療や介護が必要になっても、できる限り住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように環境を整備していくことが重要です。この整備の一つとして、医療と介護の提供体制が適切に形づくられ、国民の自立した生活を支援し、尊厳を保持された暮らしを継続することが課題となっています。

2018年介護報酬改定の際に「生活機能向上連携加算」が新設されました。この加算は、訪問リハビリテーション事業所や医療提供施設等のリハビリテーション専門職等が、加算の算定できる介護保険事業所（表1）と連携し、自立支援・重度化防止に資する介護を推進するために設けられたものです。加算には、生活機能向上連携加算（Ⅰ）100単位/月と、生活機能向上連携加算（Ⅱ）200単位/月があり、利用者宅に訪問するなど、それぞれに要件があります。

当院では、2021年12月より、墨田区・江戸川区の4つの介護保険事業所をリハビリテーション専門職が訪問して、「生活機能向上連携加算」取得支援を行っています（図1）。

具体的には、

- ① 介護保険事業所と当院とで契約を結びます。
- ② 打ち合わせ後に個別の計画書に利用者の基本情報などを記載していただきます。
- ③ 介護保険事業所に、リハビリテーション専門職が平日の午後、3時間程度訪

算定のできる介護保険事業所

1	訪問介護
2	通所介護・地域密着型通所介護
3	認知症対応型通所介護
4	短期入所生活介護
5	特定施設入居者生活介護・地域密着型特定施設入居者生活介護
6	介護老人福祉施設・地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護
7	小規模多機能型居宅介護
8	定期巡回・随時対応型訪問介護看護
9	認知症対応型共同生活介護

表1

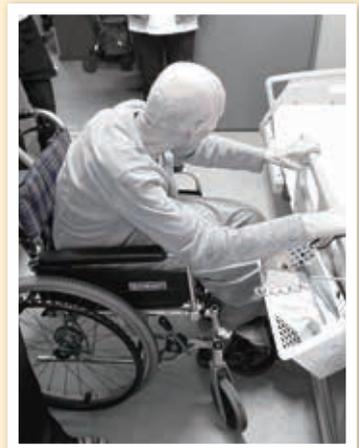


図1 加算取得支援の様子

区東部地域リハ支援センター事業「地域リハビリテーションセミナー」予定

区東部地域リハ支援センター事業「地域リハビリテーションセミナー」をお知らせします。地域リハビリテーションの理解を深める研修会の一つになっています。医療介護福祉保健等に従事する皆様、是非、ご参加ください。

第6回	日時 令和4年7月8日（金）18:30～	会場 Zoomによるオンライン開催	定員 50名
	「精神患者者にも対応した地域包括ケアシステムの構築～江戸川区の取りくみについて～」		
	講師 地域活動支援センターはるえ野	松本 直之 氏	NPO法人江戸川区相談支援連絡協議会
	江戸川保健所 精神保健係長	内本 憲秀 氏	
江戸川区では現在、精神障害者の地域移行を推進し、誰もが住みやすい地域を目指しています。医療機関や障害福祉サービス事業所等と地域移行推進会議を開催した区の取り組みや事業所の取り組みを報告いたします。			

問します（うち1時間はカンファレンスを実施）。スタッフと一緒に、おおよそ5名程度の利用者を個別評価します。身体機能面・精神機能面を含めた生活機能全般に関して、カンファレンスで話し合いを行いながら、個別計画書を作成します。

④ 三か月ごとに再度アセスメントを行います。

このような流れで、支援をします。

昨年度、「生活機能向上連携加算」の支援後に行ったアンケート調査では、リハビリテーション専門職が介護スタッフと連携をとることで、利用者の生活機能全般に改善する点が認められています（図2）。また担当ケアマネジャーへのアンケート調査でも、「利用者の身体状況が改善した」71.4%、「利用者の自立支援に対する理解度が高まった」85.7%、「利用者が意欲的になった」71.4%と好評を得ています。

介護事業所スタッフが気づいた「生活機能向上連携加算」後に改善した点

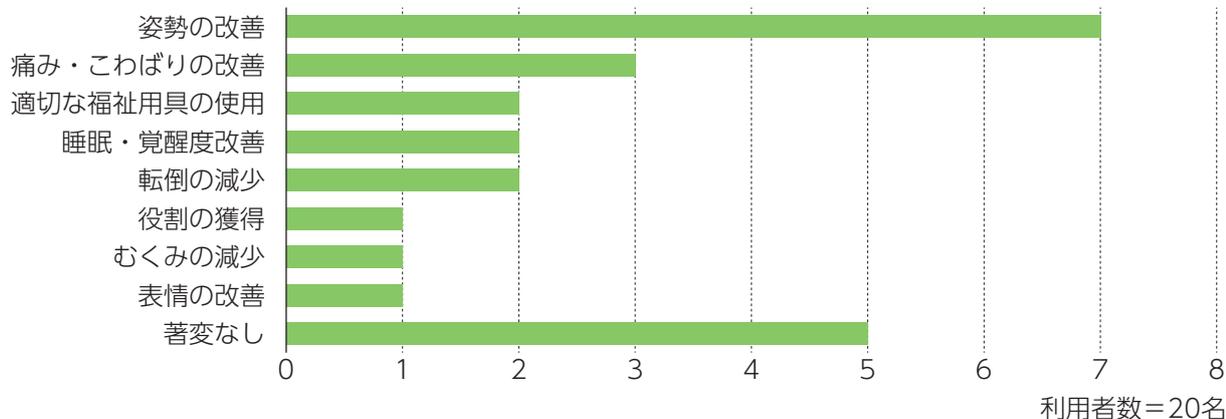


図2

「生活機能向上連携加算」の取得が可能な介護保険事業所の皆様、加算の取得支援に関心がございましたら、是非、ご一報いただけますと幸いです。

問い合わせ先：東京都リハビリテーション病院
 地域リハビリテーション推進科 水野・中谷
 電話番号 03-3616-8600（内線376）

日時 令和4年7月22日（金）18:30～ **会場** Zoomによるオンライン開催 **定員** 50名

第7回 **「介護保険「卒業」の形とは」**

パネリスト 森山ケアセンター老人保健施設 理学療法士 鈴木 真治 氏
 ライフクリニック 作業療法士 馬場 博文 氏
 訪問看護ステーションMARU 作業療法士 伊坂 匡史 氏
 東京都介護支援専門員協議会 副理事長 大木 一郎 氏

「地域の中で、自分の人生をどう暮らしていくべきか」、高齢期において大きなテーマの一つになっていると思います。それぞれの専門職として、何をどう考え、どのようにしていくべきか、4名の講師にご意見を伺います。後半はディスカッションも行う予定です。

研修会の開催方法は、来場型とオンライン型のハイブリッドを予定していますが、コロナウイルスの感染状況により、変更になる場合もあります。区東部地域リハ支援センターのホームページで随時、日程や申し込み、開催方法などをご確認ください。



臨床研究の報告～OT編～

胸腰部脊椎疾患の方の痛みと精神面についての調査研究

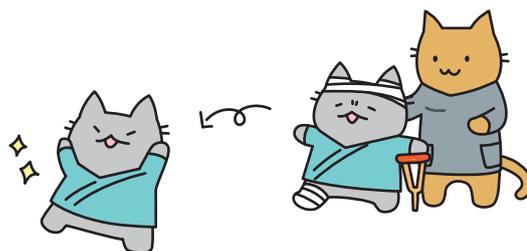
一般病棟では手術後のリハビリ目的で入院される方が多く、痛みで悩まされる方も少なくありません。疼痛が慢性化すると、不活動や社会的関係性の喪失、経済的負担の増加など生活の質が低下すると言われています。痛みが続くと、体の機能だけでなく心の状態にも悪影響を及ぼすとされており、このような悪循環とならないよう適切な対応が必要となります。

痛みの訴えが多いとされている胸腰部脊椎疾患の方々に対して、①痛みの強さ、②痛みの捉え方、③不安・抑うつ、④できる感（自信）、⑤身の回りの動作の自己チェック（気づき）を調査し関連について検討しました。

結果は、痛みの強さよりも痛みの捉え方に「不安・抑うつ」が強く関連を認め、「できる感（自信）」は中等度の関連を認めました。

痛みのある方には、不安の軽減と少しずつ自信をつけられるような関わりが大切です。痛みなどのネガティブな面だけでなく、患者さん自身の中のポジティブな一面（強み）に目を向けられるようなルールづくり（思考の修正）が重要です。

さらに現在は、ストレス耐性や精神的健康度などを含め調査を継続しています。



作業療法科 高橋 啓

「自動車運転再開支援における視線計測器の臨床応用」のご紹介

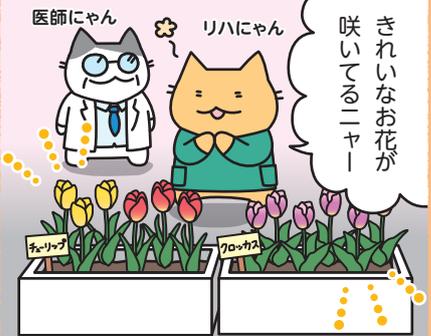
脳卒中や脳外傷は道路交通法で免許の取り消し・停止となる可能性がある病気として定められているため、該当する患者様は医師の診断書を持参して運転免許センターで適正相談を受けます。作業療法科では、医師の診断のためにドライビングシミュレーターを行っています。



本研究では、ドライビングシミュレーター中にどこを見ているかを眼鏡型の視線計測器を用いて測定し、脳卒中・脳外傷の患者さんと、脳に関する病気の無い人で比較しています。現在までに、脳卒中・脳外傷患者さんは病気のない人よりも、ドライビングシミュレーターの運転中にバックミラーを見る回数と時間が少ないことが統計学的に分かっています。今後も、患者さんの自動車運転再開に役立つように、研究を継続していきます。

作業療法科 高井 真希子

非公認キャラリハにやんが行く!
都リハ病院
いんどいんメガネ その19
園芸部の活動編



お花はきれいだけどリハビリと関係あるのかニヤ?

リハにやんくん、この間風邪で寝込んでしまっていたね。その時、どんな気分だったかな?

病気になるって、身体だけでなく心も落ち込んだりよな。

自然にはそんな心を優しく包んでくれたり、元気を引き出してくれる力があるんだよ。

リハビリには「やりたい」とか「やれそう、やらなきゃ」と思う気持ちが大切なんだ。

園芸を通して、患者さんの心を動かす「ぎっかけ」作りをしているんだよ。



声をかけてもリハビリ中は車いすから立とうとしなかった患者さんが

枯れそうな花を見て水をあげようとして立ち上がったこともあるんだ。

他にも、四季の感覚を促したり、園芸に詳しい患者さんから知識を教える、もらうことで自信を引き出したり、患者さん同士の交流の場としても活用しているんだよ。

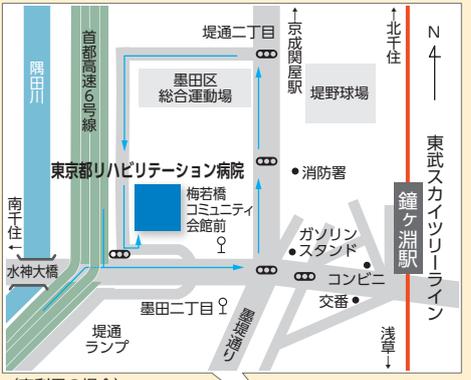
いつもお世話をされている患者さんも世話をする側の体験をすることで自信に繋がることもあるんだ。

花には人の心を動かす力があるんだニヤ。今日も都リハ病院のこっと少し詳しくなれたニヤ。

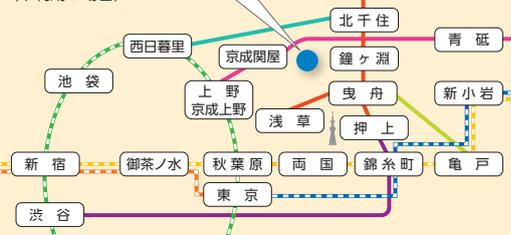
たいへんよかったです。

南千住	都営バス	10分	梅若橋コミュニティ会館前	徒歩	2分
錦糸町	都営バス	25分	墨田二丁目	徒歩	4分
浅草	東京メトロ半蔵門線	12分	浅草	徒歩	7分
亀戸	東武スカイツリーライン	10分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
北千住	東武スカイツリーライン	20分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
北千住	東武スカイツリーライン	5分	鐘ヶ淵	徒歩	7分
京成上野駅	京成本線	12分	京成関屋駅	徒歩	15分

交通案内



- JR山手線
- JR総武線快速
- JR中央線・総武線各駅停車
- JR中央線快速
- 東京メトロ千代田線
- 東京メトロ半蔵門線
- 東武スカイツリーライン
- 東武亀戸線
- 京成本線



※東京都リハビリテーション病院は、東京都が設置し、公益社団法人 東京都医師会が指定管理者として運営を行っている病院です。



東京都リハビリテーション病院 広報委員会
 〒131-0034 東京都墨田区堤通2-14-1
 TEL : 03-3616-8600 FAX : 03-3616-8705
<https://www.tokyo-reha.jp/>



UD FONT
 見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

編集後記 今号では編集作業の期間に滑り込みで届きました、『病院機能評価 高度・専門機能』の認定について掲載いたしました。本体審査は今年10月へ延期となり、現在改めて受審へ向けての準備を進めております。

2022年7月1日(金)発行